

学校だより

大津市立葛川小中学校

平成28年12月号

2学期を振り返って



2学期は、一年で一番長い学期です。季節が夏の終わりから秋、そして初冬と変化していく中で、たくさんの学習や行事を行ってきました。その時々、子どもたちは、自分と向き合い、周りからの励ましや力添えを受けながら、一人では乗り越えられなかったハードルをひとつひとつ越え、わずか4ヶ月ではありますが、たくましく、頼もしく、人としての幅を広げてきたように感じます。もちろん、子どもの成長には個人差というものがありますので、たとえ同学年であっても、現時点での到達度は違います。大事なことは、着実に成長の道をたどっていることに、大人が気づけているかどうかということです。子どもの成長は、周りにその成長を気づいてくれ、一緒に喜んでくれる大人がいることで、より確かなものとなります。



新しい年を迎える節目の冬休み、ご家族でお子様の成長を喜び合い、一家団欒のひとときをお過ごしいただければ幸いです。

自己肯定感とは…

11月24日(木)に学校保健委員会を開催しました。今年、中学校のスクールカウンセラー鎌田先生から「子どもの生きる気力、大人の見守る気力を育てる～自己肯定感という視点」と題してお話をいただきました。皆で学び合いました。



自己肯定感とはありのままの自分を肯定し、自分を大切に思える気持ちのことをいいます。

子どもが「ありのままの自分」でよいと思えるためには、

「ありのままの自分」を受け入れて安心させてくれる誰かが必要です。それは、友達でも良いけれど、「受け入れる」「安心させる」という点で、周囲の大人の役割が大きいのです。実際に大人は子どもに何ができるかということ、子どもが安心して何かをやろうとしている時は認め、応援し、見守る。不安に思っていると感じたら安心感を与える声かけをしてやること。

「それでいいよ」、「がんばってくれているよね。」

「今のままでいいよ」、「〇〇さんが〇〇してくれるからとても助かるよ。」、「今こんな気持ちでいるのだね」

子どもも大人も「ありのままの自分を尊重し、自分

を大切に思える。」ことが、子どもの生きる気力と大人の見守る気力につながります。受け入れてもらっているという気持ちを子どもも大人も持てるような学校や家庭にしていきたいですね。

具体的な言葉かけやロールプレイを通して実感として学ぶことができました。子どもたちとの関わりの中で生かしていきたいと思います。(養護教諭より)

子どもたちの作文から

<地域清掃：支所の掃除より>

・まどやカーテンがきれいになったとおもいました。おうすけくんが、てつだってくれました。ゆかもきれいになったかな。

・とくにがんばったところは、カメムシをとるところです。一ばんきれいにできたところは、まどのしたのみぞのところでした。

<ソーシャルスキル学習より：小学校>

・今日勉強してわかったことが3つあります。1つ目はおこった時に体に出る異変。2つ目は爆発のふせぎ方。3つ目は体の中にでる異変です。これがわかってよかったです。

・今日は「おこっている」のうらに、つらい、かなしいがあるというのを知れたので良かったです。みんなそれぞれおこり方、しずめ方があったので、おもしろかったです。

・私は、みんな、人それぞれ「いかり」とどう戦っているのが聞けたのでおもしろかったです。おこるときも、人それぞれなので、人が傷つかないようにしゃべらないといけななあと思いました。

<職場体験より：中2>

・私の夢は、小さいころから保育士になることでした。職場体験を通して、改めて保育士になりたいと思いました。5日間はあっという間でした。しかし、生き生き働く保育士さんたちを見てすごく学ぶことができました。

・楽しかったけどめっちゃ疲れました。5日目は今まで作ってきた部品を全部組み合わせる作業でした。ちゃんと完成して達成感をめっちゃ味わいました。

<大規模校体験より：中1>

「行きたくない。」と言っていたけど、最初から声をかけてくれたのでとてもうれしかったです。3日目になったら、緊張がほとんどほぐれて自分から、「たまー」に声をかけることができました。部活が終わると少しさみしくなりました。

